本学会と交流のある海外学会の
定期研究集会派遣報告

第 11 回タイ医学物理学会年次大会 (TMPS 2019)

開催場所：パッタヤー市，タイ
開 催 日：2019 年 1 月 24～26 日

第 11 回タイ医学物理学会年次大会に参加して

派遣員　大久保玲奈　金沢大学大学院医薬保健学総合研究科

2019 年 1 月 24～26 日まで，タイのパッタヤーで開催された第 11 回タイ医学物理学会（Thai Medical Physicist Society: TMPS）年次大会に参加し，口述発表を行ったので報告する．

タイの医学物理士が中心となって主催する本学会は，今回で 11 回目の開催であり，参加者数は 180 名ほど，そのうち日本からの参加は全体の 10％程度であった．セッションは大きく診断・核医学と放射線治療分野で分かれており，テーマである“Medical Physics for Patient Benefit”を中心としたセミナーが多く開催されていた．日本の学会と異なり，主催者から昼食が振舞われ，テーブルを囲んで食事をしたり，コーヒーブレイクがあったりと，参加者同士で親交を深めることができる機会が多く設けられていた．また，合同懇親会でも，ダンスを披露したり，プレゼント抽選会を開催したりと，国際学会に不慣れな参加者でも一緒に楽しめるよう，歓迎する気配りを感じた．

発表は，“Estimation of Cross-Sectional Effective Energy in X-ray CT: Measurement and Simulation Study”という演題名で行った．銅製パイプ型吸収体法で推定したファントム断面内の実効エネルギーを，モンテカルロシミュレーションを用いて検証する，という内容であった．緊張したが，事前に十分練習した甲斐もあり，発表はスムーズに行うことができた．質疑応答では，研究に関して有益なコメントを頂くことができ，今後の参考にしようと思った．

最も印象に残ったのは，胎児被ばくのセッションである．「妊娠に気付かず，X 線の検査を受けてしまった場合，医学物理士がまずしなければならないことは何か」という質問に対し，大会長である Anchali Krisanachinda 先生は，「医学物理士として，まず適切な胎児被ばく線量のデータを提供することである．意思決定はチームですべきだ」と答えた．この回答に診断領域を専門とする医学物理士の必要性や存在意義を感じた．また，学会全体を通して「患者のための医学物理」という理念をもって研究活動に取り組む姿に感銘を受けた．

Photo　発表中の筆者

最後に，本学会の参加に際してご支援を頂いた，日本放射線技術学会の関係各位に厚く御礼申し上げます．また，助成金は渡航費用として使用しました．